

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2015年9月

第22号

(年4回発行)

秋の
お彼岸号

発行部数3千部

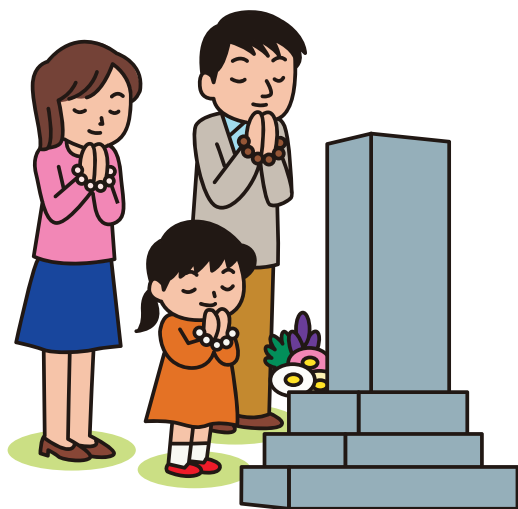


内陣天蓋／西願寺

お彼岸は浄土と先祖を思う日／丹羽義昭住職インタビュー
シリーズ浄土宗／浄土宗のルーツを辿るⅠ
実践教室／友引と通夜・葬儀

お彼岸は浄土と先祖を思う日

お彼岸は、秋分の日、春分の日を中日として前後三日間をいいます。秋分の日、春分の日には太陽が真東から昇り真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日です。極楽浄土は西方にあるとされているため、この日は、あの世とこの世が交わる日と考えられました。そして極楽浄土と最も心が通じやすい日ということで、先祖供養のためにお墓参りをするようになったそうです。



問 「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通り、お彼岸時期を迎えると季節の移り変わりを感じ過しやすい日が増えますね。お彼岸ではお参りの方も多いのではないのでしょうか？

住職 そうですね。お寺の年中行事の中では、お盆よりもお彼岸の方がお参りにみえる方の数は多いですね。それは、気候だけでなくそれぞれの行事の捉え方によるんじゃないかな。お盆の場合は、ご先祖が家に帰ってくるという考えから、自分の家のお墓にお迎えに行つて…という感じで、お彼岸の場合は自分の家のお墓だけじゃなく親戚のお墓にもお参りに行くとする人が多いのだと思います。

問 では、西願寺や彩の都メモリアルパークも毎年お参りの人で賑わいそうですね。

住職 多くの方がお参りにみえますが、それでもやはり少し前と比べるとお墓参り自体が少なくなつたように感じます。最近では、お墓参りだけでなく法事などにも子どもたちを参列させないこともあるんです。以前にお話したこともありすが、今ある自分は両親がいて、祖父母がいて、そのまた親がいて…と脈々と続いてきた「いのち」の繋がりがあつてのことなんです。それに気づいた時、親を大切にしよう、先祖を大切にしよう

いう気持ちも生まれるものではないでしょう。家族皆が参詣するお墓参りや法事はそのことを身近に感じることのできるいい機会だと考えているのです。

問 法事に子どもたちを参列させない家庭があるというのは知りませんでした。家族揃ってのお墓参りの習慣なども減っていつてしまふのは寂しいことですね。

ところで、お彼岸は日本独自の行事だそうですね

住職 はい。仏教では、彼岸と此岸の考えはありますが、季節の仏教行事としてのお彼岸は日本独自の文化なんです。日本では、神道にまつわる行事を行う一方、先祖信仰や、仏教の教えも受け入れてきましたいろいろな考えが結びつき日本独自のお彼岸となったのだと思います。日本の祝日法という法律では秋分の日を「先祖を敬い、亡くなった人を偲ぶ日」、春分の日を「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」とし国民の祝日と定められているんです

よ。

問 なるほど。先祖を大切に思うということが法律の一文からもわかりますね。先祖代々のお墓へのお参りに伴い、自然と今あるお墓のことやこれからのことも考えるようになりますね。代々続いてきたお墓であっても、最近では承継問題で頭を悩ます方も増えているのではないですか。

住職 そうですね。少子化だけが原因とは思いませんが、この頃は、お墓の後を継ぐ方がいらつしやらないという声もよく聞きます。

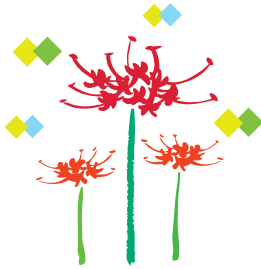
問 西願寺や彩の都メモリアルパークに墓地をとられていて、今後ご自分のお墓が無縁墓になってしまうかも心配されている方はどうすればよいので

しょう。

住職 いろいろなケースがあるので、この場で一概にこうとは言えませんが、何年間かは墓所をそのままにして寺が代わってお墓を守るようにされる方もいますし、亡くなった後すぐに合祀されるという場合もあります。

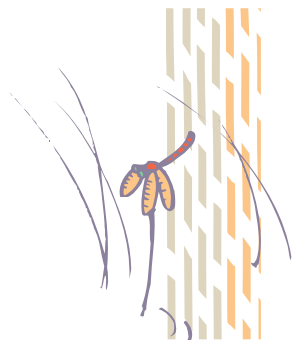
無縁ということを心配される方もいらつしやいますが、お寺（西願寺）が永代に渡ってお守りいたしますし、私たちお寺との縁があるわけですから無縁ではないのですよ。どのようにしたのかなど何でも、まずは気軽に相談していただければいいと思います。

問 そう言っていたけると心強いですね。彩の都メモリアルパークでは新しく永代供養墓「華苑」も建立されたそうですね。個々でもご夫婦でもご予約できるのとことで、そちらも選択肢の一つになるのではないのでしょうか。お彼岸のお墓参りでは、改めてお彼岸の在り方について考えてみるのもいいですね。本日は、ありがとうございます。



浄土宗のルーツを辿るⅠ

浄土宗は、浄土教を源流としてその念仏の教えを受け継いできました。日本では平安時代中期以降に花開いた浄土教ですが、経典はすでに飛鳥時代に伝わっていたとされています。紀元前二世紀にインドで成立した「無量寿経」はどのようにして現在の私たちのものとへきたのでしょうか。その歴史を辿ってみます。



お釈迦さまの滅後、口伝によって伝えられていたその教えは、やがて文字として残されるようになります。これが経典のはじまりです。浄土宗の根本経典の一つ『無量寿経』は、お釈迦さま滅後三〇〇年ほど経った紀元前二世紀頃成立したといわれています。無量寿経では、阿彌陀如来が悟りを開く前にたてた誓願の成り立ちと、極楽浄土の世界が描かれています。また、念仏による往生の実践法が説かれ、この阿彌陀如来の救いを強調したのが浄土教なのです。

インドで誕生した浄土教

「南無阿彌陀仏の本願を信じ、念仏を称えれば極楽浄土に往生できる」と説く浄土教は、二、三世紀に大乘仏教を大成したインドの僧・龍樹が著した『十住毘婆沙論』^{じゅうじゅうびはしゃろん}や、四、五世紀のインドの僧・世親による『浄土論』のなかで説かれています。

龍樹は、八宗の祖といわれるインドの僧で、紀元前二世紀頃、インドの貴族として生まれ、仏教を大衆化させた大乘仏教の祖師としてあがめられています。龍樹は、仏教の苛酷な修行を自己に課し自力で悟りの境地をめざす〈難行道〉と阿彌陀仏に一切を託し、救われることを信じ切つて悟りをめざすという〈易行道〉とに分類しました。易行道は、どんな人間でも安易に行えることからその名が名づけられました。『無量寿経』にもあるように、真実の心をもって「南無阿彌陀仏」と称えれば極楽浄土へ往生できるといふものです。

シルクロードを経て中国へ

インドを源流とする大乘仏教は、やがてシルクロードを経由して中国へと伝えられ広まっています。

中国の王は僧たちに対して、経典などをできるだけ多く取り寄せ、翻訳するように命じ、僧たちは経典を求め命がけで天竺（インド）への旅にでました。三蔵法師が天竺から持ち帰った経典のなかには、阿彌陀仏の教えにかかわる浄土教の経典もあったのです。（次回は中国での浄土教）

「友引と通夜・葬儀」

通夜とは、遺族や親族、故人と縁のあった人たちが集まってご遺体のそばで葬儀までを静かに過ごすのが本来の意味でした。しかし、最近では葬儀に参列できない人が通夜に出席するようになったこともあり夜六時頃から二、三時間で終わる「半通夜」が主流となっているようです。また、浄土宗の葬儀は、故人を極楽浄土へと旅立たせるための儀式が中心で、告別式とは、故人の友人や知人が最後の別れをする儀式で本来は、別々に行うものでしたが、最近では葬儀と告別式を兼ねることが多くなっています。

友引に葬儀を避ける習慣は 仏教の教えと無関係

さて、葬式には数々の迷信がありますが、なかでも仏滅や友引などによる日取りが語られることが多いのではないのでしょうか？ 葬儀の日が友引に当たると、葬儀を友引の次の日にずらすというのがそれです。そのため、友引

に葬儀が当たると葬儀の前の夜に本通夜、そしてその前の夜に仮通夜を行うこととなります。

「友引の葬儀をさける」というのはその漢字から、この日に葬儀を行うと亡くなった人が友を引き寄せてしまうと考える迷信ですが、そもそも「友引」とは、古代中国で武将の戦いの占いに使われた六曜の一つでその意味も「先勝・先負の間に入って勝負なし」ということだったそうです。ですから、友引に葬儀を避ける習慣は仏教の教えとは関係のないことだったのです。

友引でも葬儀はできる…現状は？

友引に葬儀を行ってはいけないということはありません。しかし、実際には、友引の日が火葬場の定休日となっているところも少なくありません。また、友引の日にこだわらず火葬することができる場合でも、まだまだ気にされる方もいらっしゃるのが現状ではないでしょうか。そのような場合でも、強引に行うことなく、不安を解消された上で心静かに葬儀が行えるようにしたいですね。

暮らしの中の 仏教語

「邪魔」【じゃま】

訪問先で「おじゃまします」としおらしく挨拶したり…。かと思えば「そんなところに居たらじゃま！ じゃま！ 早くどいて」なんて邪険な扱いの言葉に使われたり…。「じゃま」って何でしょう？

「じゃま」は漢字で書くと「邪魔」。もとは仏法を妨げ、修行を妨げる魔を正しくないという意味を込めて「邪魔」と呼んだそうです。「魔」はサンスクリット語のmāra（マール）を音写した魔羅の略で欲界（三界）を支配する魔王のこと。そこから転じて悟りの妨げとなる煩惱のことをいうのだとか。本来の意味を知ると謙虚な気持ちで「じゃまします」宣言をするのも何だか不思議な気持ちですね。



■第6回 十三夜お月見コンサートのご案内■

毎年恒例となっている西願寺の「十三夜お月見コンサート」！ 今年も、お寺で聴くオペラです。テノール歌手の並木隆浩さん、ソプラノ歌手の衣笠千恵子さん、ピアニストの杉山潤子さんをお招きして秋の夜オペラの夕べを開催します。

皆さまお誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。



日 時／平成27年10月23日（金）18時受付

場 所／西願寺本堂

参加費／1,000円

参加申込・お問合せは下記の西願寺TEL・FAXまで



西願寺 別時念佛会のご案内

日時／毎月25日 18時より

場所／西願寺本堂

■参加申込について

事前にご連絡をお願い致します。

当日でも大丈夫です。

お気軽にご参加ください。

※当日灯明料をご奉納願います。

お月見コンサート・別時念佛会のお申込・お問合せ

西願寺

TEL. 048-925-1723

FAX. 048-925-1789

「お十夜」って何だろう？

今から500年ほど前、伊勢守 平 貞経いせのかみたいらのさだつねの弟貞国さだくにが、京都の真如堂（天台宗）で修したのがその始まりとなった浄土宗寺院でひろく行われる法会「お十夜」。「十夜法要」や「十夜講」「十夜念仏」などともいわれますが、正しくは「十日十夜法会」といいます。明応4年（1495）に、現在の浄土宗の大本山の一つになっている鎌倉光明寺の第九世観誓祐崇上人が、後土御門天皇に招かれ宮中で『阿弥陀経』の講義をされ、さらに真如堂の僧と一緒に引声念仏を修し、勅許を得て光明寺で法要を行うようになりました。これが浄土宗でのお十夜のはじまりです。もともとは陰暦の10月5日の夜から15日の朝まで10日10夜にわたる法会でしたが、現在では5日、3日、あるいは1日と短縮されて行われています。十夜は、お念仏の尊さを知り、感謝の気持ちを込めてお称えする浄土宗の大切な法要なのです。



掲 示 板

●秋彼岸会

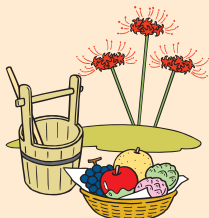
9月20日(日)～9月26日(土)

●葬祭フェア開催

9月20日(日) 21日(月)

場所…彩の都 あすま会館

当日は、会場
で祭壇等の展
示をし葬儀に
ついてのご相
談やご質問を
お受けいたし
ます。お気軽
にお越しくだ
さい。



葬祭フェアについての
お問合せ(彩の都 あすま会館)

TEL. 048-921-4194

彩の都メモリアルパーク

永代供養墓「華苑」のご案内

この度、彩の都メモリアルパークでは永代
供養墓「華苑」を増設致しました。後継ぎの
いない方でもどなたでもご利用いただけます。

詳しくは彩の都メモリアルパーク管理事務
所までお問合せください。



墓所には名前と生年月日・没年月
日を彫刻した銘板が設置されます
(写真のプレートは見本です)



Q & A



葬儀などに参列した際、自分の信仰と違う
宗派・宗教だった場合どのように拝めばよ
いのでしょうか？



主宰者側の信仰を尊重して先方のやり方通
りにするという考え方もありますが、日頃
称え慣れないお念仏は言いにくいでしょうし、ま
してや仏教徒がキリスト教の葬儀に参列したから
といって、心にもなくアーメンと言う必要はない
のではないのでしょうか。「南無阿弥陀仏」と称え
るのが浄土宗のお念仏ですが、違う宗教・宗派の
場合、無理に合わせるのでは
なく、敬虔な気持ちで合掌礼
拝するのがよいでしょう。

大切なのは生きている側の
形式ではなく、自分が故人に
対し、どのようにまごころを
捧げるかということです。



■お便り募集■

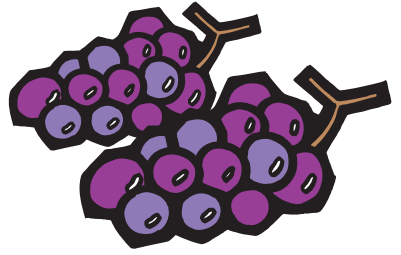
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問
や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、
どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03 (32695) 13602 Mail: info@io-con.net

■次号予告

次号は平成二十七年十二月発行予定の「新年号」です。



◆編集後記◆

お彼岸の頃になると咲く不思議な花「彼岸花」。花のある時期には葉がなく、葉のある時期には花がないという特徴から「葉見ず花見ず」と呼ばれたりもするそうです。この彼岸花の別名を曼珠沙華と言いうのは皆さんご存知ですよね。曼珠沙華はサンスクリット語で天界に咲く花という意味でおめでた事が起こる兆しに赤い花が天から降ってくる、という仏教の経典からきているのだとか。

さて、今号では浄土宗の教えのルーツを辿ると題して浄土宗の源流である浄土教誕生の地について掲載しました（次号はその続きを掲載予定です）。インドから始まる教えの旅は様々な人を介して長い時間と道のりをかけシルクロードを経由し中国、そして日本へと伝わります。秋の夜長は、仏教の歴史本でも開いて本の中の仏教を辿る旅に出かけるのもいいかもしれませんね。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部